



最初にお読みください

CentreCOM® 8216XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8216XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.5J

2 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.5.4J から 2.5.5J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


- 2.1 デフォルト VLAN 以外の VLAN で送信元 MAC アドレスがすべて 0 (ゼロ) のパケットを受信すると、該当の MAC アドレスが学習されていましたが、これを修正しました。
- 2.2 メニューで新規 VLAN の定義 (Add new table entry) を行うときに、VLAN 名を指定せず、所属ポートのみを設定して前の画面に戻ると、自動的に割り振られた VLAN ID が使用済みとみなされ、同 VLAN ID の VLAN を作成できなくなっていました。これを修正しました。
- 2.3 メニュー画面から MAC アドレステーブル上の MAC アドレスの指定によるポートの検索 (Get Port From MAC Address) を行った場合、ポートの所属 VLAN が正しく表示されませんでした。これを修正しました。
- 2.4 IGMP スヌーピング有効時に、本製品に存在しない VLAN ID を持つ IGMP Membership Report メッセージを受信すると、そのグループが MAC アドレステーブルに登録されていましたが、これを修正しました。
- 2.5 ポートセキュリティの Limited/Dynamic Limited モード時、MAC アドレスの登録数が上限に達していても、未学習の MAC アドレスを持つ IGMP Query および Report メッセージはフラッディングされていましたが、これを修正しました。
- 2.6 自動学習により MAC アドレステーブルに登録された MAC アドレスと同一の MAC アドレスを、受信ポートとは異なるポートにスタティック MAC アドレスとして登録できない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.7 マルチプル VLAN とポートセキュリティの併用時、本製品を再起動すると本製品宛通信およびスイッチングができなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.8 受信データを処理する過程に誤りがあり、まれに本製品がリブートする場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 2.9 TFTPのダウンロード・アップロード時に使用するソフトウェアのイメージファイル用パスワードと設定ファイル用パスワードに同一の文字列が設定できないよう仕様変更しました。

3 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 2.5.5J には、以下の制限事項があります。

3.1 ポートセキュリティについて

 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-46ページ

セキュリティモード時、未登録のMACアドレスを持つパケットを受信し続けていると、Pingなどの本製品宛の通信ができなくなることがあります。

3.2 DHCP クライアント機能について

 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-42ページ

DHCPクライアント機能使用時に、DHCPサーバーがネットワークから切り離されているなどして応答がないと、以下のような現象が発生します。

- Renewal Time Value (T1 Timer)の時間が経過するとDHCP requestメッセージが送信されますが、DHCPサーバーから応答がなかった場合、DHCP requestメッセージが再送されません。
- リース時間経過後にDHCP releaseメッセージが送信されず、IPパラメーターが解放されません。また、この状態で本製品を再起動した場合、DHCPサーバーからIPアドレスが取得できないと、ARP パケットに不正なIPアドレスをセットして送信します。

4 オペレーションマニュアルについて

ソフトウェアバージョン2.4.0Jで、オペレーションマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」というAT-S24/AT-S26 ソフトウェア搭載製品共通のマニュアルに改版されました。

このマニュアルは弊社ホームページに掲載されていますので、同梱のマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」でない場合は、そちらをご覧ください。

初期バージョン以降、どの機能がどのバージョンで追加されたかは、v ページ「追加機能と対応ソフトウェアバージョン」に記載されています。


「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」へのリンクはこちら：

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/list/switch/8216xl/manual.html>

5 オペレーションマニュアルの補足・誤記訂正

「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」の補足と誤記訂正です。


5.1 ポートミラーリングのポート設定について

 参照 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-72ページ

ポートミラーリングのソースポートとミラーポートは、次の2グループの同一グループ内で指定してください。


- ☐ ポート 1～8
- ☐ ポート 9～16

5.2 MAC テーブルの消去について

 参照 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-124ページ

ダイナミックに学習した MAC アドレスの登録をすべて消去する [Clear dynamic MAC table] オプションについて、MAC アドレステーブルに MAC アドレスが 4,000 個以上登録されているような場合は、このオプションを 2 回実行するようにしてください。一度の実行ではすべての MAC アドレスが消去されない場合があります。

5.3 マルチプル VLAN モードとポートセキュリティの併用について

 参照 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-109ページ

マルチプル VLAN モードとポートセキュリティを併用した場合、1 つの Uplink VLAN Group (UV と CV のグループ) 内に同一の MAC アドレスを複数登録することはできません。

5.4 イングレスフィルター設定について

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、[Virtual LANs/QoS] メニューに、各ポートでイングレスフィルターの有効・無効を設定する [Ingress Filter configuration] メニューオプションが追加されました。以下に設定手順を示します。

- 1 [Main Menu] -> [Virtual LANs/QoS] -> [Ingress Filter configuration] とすすみます。
- 2 「Ingress Filter configuration」画面からポート番号を選択し、「Ingress Filter Menu」画面を表示します。次の画面は「ポート 1」を選択した場合です。



Enable Ingress Filter/Disable Ingress Filter

イングレスフィルターの有効・無効を設定します。デフォルトは Enable Ingress Filter です(ソフトウェアバージョン 2.4.2J 以前は常に Enabled)。

Enable Ingress Filter

受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致した場合のみパケットを受け入れ、それ以外は破棄します。

Disable Ingress Filter

受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。

i 本製品でIGMPスヌーピング機能によるマルチキャストグループの登録を行い、かつ、本製品にIGMPメッセージを送信しないマルチキャストパケット送信専用サーバーなどを接続した環境の場合、サーバーの接続ポートをDisable Ingress Filterに設定することにより、サーバーから本製品に登録されたマルチキャストグループ宛のフラッドが可能になります。

! マルチプルVLANモード時はこのメニューオプションが表示されません。イングレスフィルターはデフォルトの Enabled で動作します。

5.5 Fan/Over-Temperature トラップについて



「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-45ページ

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、Fan トラップ（ファンの異常検出時に発行）と、Over-Temperature トラップ（システム内の温度異常検出時に発行）を、システムの起動後2回目以降の異常発生時（一度通常状態に復旧した後、再度異常が発生した場合）にも送信するよう機能拡張しました。

5.6 Xmodem によるソフトウェアのダウンロードについて



「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-22ページ

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、[Administration] メニューから、Xmodem によるソフトウェアのダウンロードを行う [XModem software update to this system] メニューオプションが削除されましたので、ご了承ください。

Xmodem を使用してソフトウェアをダウンロードする場合は、Boot メニューから行ってください。以下に手順を示します。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、または [Reset and restart the system] オプションを選択して、システムを再起動します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。

```
BOOT VerX.X

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....
```

- 3 Boot メニュー (ATI Diagnostics) が表示されたら、「->」プロンプトに続けて ☒ を入力し、[X: XMODEM download updated System Software] オプションを選択します。
- 4 リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。

```
The System is now ready for download. Please start your XMODEM transfer.
CCCCC
```


- 5 コンピューター（コンソール）から、ファイルを転送します。
プロトコルタイプは「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します（ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください）。

- 6 ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、システムは自動的に再起動します。

XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash PROM.

- 7 「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)」と表示されたら、**[Enter]**キーを押します。
- 8 メインメニューが表示されます。

5.7 パケットのプライオリティの決定について


 **参照** 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-94ページ

「ポートプライオリティの割当て」の説明について、以下のとおり補足します。

ユーザープライオリティ値、もしくはポートプライオリティの設定によって High キューでパケットを受信したときに学習された MAC アドレス宛ての通信は、以下の条件下においては、ユーザープライオリティ 7 がセットされて送信されます。

- ・受信パケットがタグなしパケットの場合
- ・ポート 1～8, 9～16 の各ポートグループ内での通信
- ・デフォルト VLAN 以外の VLAN での通信

5.8 トラップの有効/無効の切り替え


 **参照** 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」/
「5 システム設定」

ソフトウェアバージョン 2.5.1J から 2.5.4J へのバージョンアップにおいて、SNMP 認証トラップおよびポートのリンクアップ/リンクダウントラップを生成する/しないを設定できるようになりました。デフォルトは、SNMP 認証トラップを生成しないように設定され、また、ポートのリンクアップ/ダウントラップを生成するように設定されています。

メニューオプション

[Main Menu] -> [System configuration] に、次のメニューオプションが追加されました。
[SNMP parameters] -> [Authenticate Failure Trap] / [LinkUpDownTrap Enable Ports]

5.9 エージングタイムについて

 **参照** 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-34ページ

ソフトウェアバージョン 2.5.1J から 2.5.4J へのバージョンアップにおいて、エージングタイムとして設定できる最大値が、999(秒)から 412(秒)に変更になりました。ソフトウェアバージョン 2.5.1J 以前で 413(秒)以上に設定していた場合は、ソフトウェアのバージョンアップ後、エージングタイムが自動的に 412(秒)に設定されます。

5.10 マルチプル VLAN について



「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-102ページ

- マルチプル VLAN 使用時の MAC アドレス登録数は、2047 個となります。
- マルチプル VLAN 使用時は、エージングタイムで MAC アドレステーブルが必ず更新されます。

8 注意事項

8.1 GBIC モジュール(1000BASE-X ポート)について

- 本製品は、[Port status and configuration] メニュー内において、1000BASE-X ポートの通信モードを [Half duplex] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-X ポートの場合、本製品出荷時点で他の検証機器がないため、本製品同士、および弊社 CentreCOM 9006SX/SC、AT-A15 との検証のみを実施しています。
- 通信になんらかの問題が発生した場合は、光ファイバーケーブルの抜き差しを行うようにしてください。また、光ファイバーケーブルの抜き差しは、必ず TX と RX の両方を行ってください。

